

たくさんの「ことば」で つながるために

わたしたちの暮らすこの世界には、声や文字、目に見えるかたちだけではない、
無数の「ことば」があふれています。

たとえば、手や身体の動きで想いを描く、表情や視線の変化で気持ちを伝える、
その人だけの「ことば」を持っています。

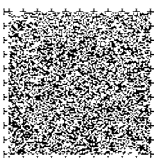
だれもが「ことばの奥に」持っている想い。

「伝えよう」「受けとろう」と歩み寄れば、あらゆるかたちで相手に届きます。

この本では、一人ひとりの違いを「隔たり」にせず、

だれもが自分らしく想いを交わし合える社会のあり方を考えていきます。

たくさんの「ことば」で、つながるために。



この本を手にとってくれたあなたへ

私たちが使っている「ことば」は、声や文字ではありません。表情や視線、身ぶり手ぶり、道具やテクノロジーを活用した工夫——。

本書では、障害の特性に応じたコミュニケーション方法の例や、一人ひとりの意思を適切に汲みとり、つないでいくための専門的な支援の役割や、日常のなかで直面する情報のバリアを取り除く方法の具体例をまとめています。また、学校や企業で実際に行われている取組への取材を通じ、多様な「ことば」を社会のなかで生かすためのヒントを紹介しています。

「自分のまわりでは、何ができるだろう」

この本がそんな問いに対するヒントとして、
たくさんの「ことば」でつながるきっかけになることを願っています。

